

花粉症から考えたこと

動物応用科学科 3年 海老名健

僕は花粉症です。毎年春先になると鼻水が止まりません。そのためその時期には、毎日マスクをつけているので、知っているとは違ってもなかなか気づかれません。しかし今年は、今の時期の秋口に、鼻水が止まらなくなり、すすると鼻汁が喉へ行き、イガイガしてきました。これでは秋もマスクをつけなければなりません。ということは、一年のうち半分を人に気づかれずに生きていかなければならないこととなります。

そこで気になるのは、何の植物の花粉症であるかということです。調べてみたところ、秋の花粉症はイネ科の植物や、ブタクサ、カナムグラ、ヨモギなどが原因で発症することが多いそうです。対処法としてはこれらの植物が多く存在する野原や河川敷には近づかず、マスクをつけて過ごすことだそうです。

思えば、僕は小学生の時から花粉症なのにもかかわらず、花粉症について何も知りません。初めて行ったお医者さんに花粉症だねと言われて以来、何の花粉症で、とくにいつの時期ひどくなるかなど、全く気にしていませんでした。さすがに

最近になり、自分の病気のことなのに興味を持たないでいたのはどうなのだろうかと思い始めました。

僕は昔から、興味の持てないことにはとことん関心を示さず、多少気になることがあっても、必要に迫られない限り、自ら調べたりはしない性格でした。やはりこの性格にはかなり弊害があるようで、みんなが当たり前知っていることも興味がないために自分だけ知らないといったことも多々ありました。この性格を悪いとは思わないのですが、研究室に入り、先輩や先生方を見ていると、本当にちょっとしたことや、他人のすることにも興味を持っているのだなと感じ、そのように何事にも興味を持って取り組むことができれば、楽しいし知識の幅も広がるし、得だなと思うようになりました。

もう僕も21歳なので性格を変えるのは難しいですが、今まで興味がないからと食わず嫌いになっていたこととにかく取り組んでみようと思います。意外とやってみたら楽しいのかもしれないと、鼻がむずむずし、ティッシュまみれになりながらそんなことを考えました。